

アルタンチメグ・シャーザン(モンゴル)

モンゴルでは、地球環境の変化、地球温暖化、人間による開発などの影響により、自然災害の発生数・頻度が増加しているなど問題が深刻になっています。

学者や専門機関が行った研究によれば、およそ 70%の国土が砂漠化の影響を受け、居住地の水位は、この 60 年間に約 4 メートル低くなり、また 200 の泉、120 の湖がこの 10 年間に干上がってしまいました。モンゴルにある森林面積は、国土の 8.1%を占めるだけですが、過去 25 年間のうちに、1,600 万ヘクタールもの森林が、森林火災・伐採、害虫被害によって失われています。

毎年モンゴルでは、20 から 30 もの気象および水関連の自然ハザード現象が観測されており、およそその 3 分の 1 が災害となります。毎年、このような災害による農業セクターへの経済被害は推定で 50-70 億トゥグルグ (約 430-602 万 US ドル) となっています。同時に、火災、地震、人・生物・植物間での伝染病、齧歯動物害のみならず、産業事故も増加しています。

このような背景により、モンゴル政府は、防災能力の強化を基本目標に設定しました。災害予防法は 2003 年 6 月 20 日に国会で承認され、その後国家市民防衛委員会や消防部、国家備蓄局を合併して国家危機管理庁 (NEMA) が 2004 年 1 月 7 日に設立されました。

災害予防法によれば、NEMA は、国家災害予防政策や制定された法律を施行する責務を負っており、また国内で実施される活動の専門機関としての役割も担っています。3,000 名以上の常勤職員が、21 のアイマック (モンゴルの行政区画) や首都にある災害管理部・課、救援ユニット、サブユニット、備蓄支部、消防部で働いています。

政府行動計画に従い、NEMA は危機管理における国際協力や国際関係を促進しながら、災害に立ち向かうための国家能力を強化しようとしています。モンゴルは、1999 年から ADRC のメンバー国として活動しており、ADRC の活動にも積極的に参加しています。

私は、ADRC 客員研究員プログラムに参加する 2 人目のモンゴル人職員です。このプログラムは、私だけでなく、NEMA にとっても世界の防災優良事例や、防災先進国の理論的・実務的な知識から学ぶ貴重な機会を提供してくれます。ADRC での滞在は、災害リスク・脆弱性評価を中心に研究に取り組みたいと思います。

日本に到着してまもなくですが、早速、国際津波・地震フォーラムに参加し、多くの貴重な情報を得ることができました。きっとこの 6 ヶ月の滞在中で、さらに多くの防災についての知識や情報を得ることができるでしょう。

